

1 素材需給の動向

(1) 素材需要量

令和2年の素材需要量は2,355万m³で、前年に比べ279万8千m³（10.6%）減少した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,485万1千m³で、前年に比べ178万6千m³（10.7%）、合板等用は462万6千m³で、同82万2千m³（15.1%）、木材チップ用は407万3千m³で、同19万m³（4.5%）それぞれ減少した。

この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が63.1%、合板等用が19.6%、木材チップ用が17.3%となった（表1、図1）。

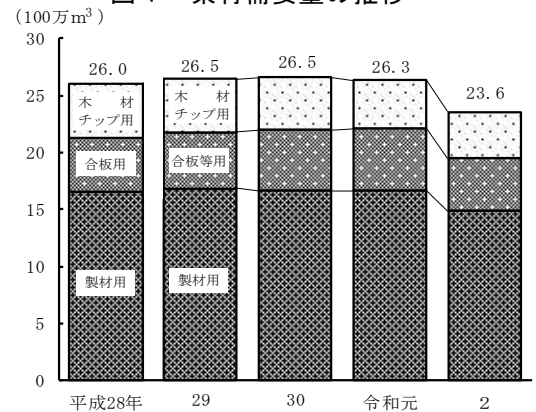
表1 需要部門別素材需要量

区 分	計	単位：千m ³		
		製材用	合板等用	木 材 チップ用
令和元年	26,348	16,637	5,448	4,263
2	23,550	14,851	4,626	4,073
対前年比 (%)	89.4	89.3	84.9	95.5
構 成 比 (%)				
令和元年	100.0	63.1	20.7	16.2
2	100.0	63.1	19.6	17.3

注：1 素材需要量とは、製材工場、合単板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量である。

2 数値及び構成比については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下の図表において同じ。）。

図1 素材需要量の推移



注：平成29年調査から、素材需要量のうち「合板等用」を新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更したため接続しない（以下の図2、3、4、10において同じ。）。

(2) 素材供給量

素材供給量のうち、国産材は1,988万2千m³で、前年に比べ200万1千m³（9.1%）、輸入材は366万8千m³で、同79万7千m³（17.8%）それぞれ減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は84.4%で、前年に比べ1.3ポイント上昇した（表2、図2）。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

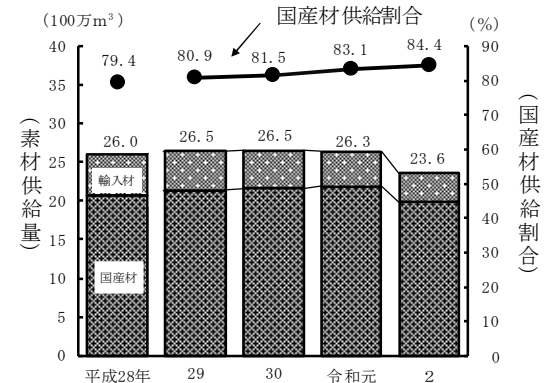


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区 分	計	国 産 材			輸 入 材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージ ーランド材	その他
令和元年										
計	26,348	21,883	19,876	2,007	4,465	164	3,423	321	393	164
製材用	16,637	12,875	12,755	120	3,762	x	2,961	230	364	x
合板等用	5,448	4,745	4,724	21	703	x	462	91	29	x
木材チップ用	4,263	4,263	2,397	1,866	0	-	-	0	0	-
令和2年										
計	23,550	19,882	18,037	1,845	3,668	103	2,841	270	322	132
製材用	14,851	11,615	11,499	116	3,236	34	2,557	210	303	132
合板等用	4,626	4,195	4,183	12	431	69	284	60	18	0
木材チップ用	4,073	4,072	2,355	1,717	1	0	0	0	1	-
対前年比 (%)										
計	89.4	90.9	90.7	91.9	82.2	62.8	83.0	84.1	81.9	80.5
製材用	89.3	90.2	90.2	96.7	86.0	x	86.4	91.3	83.2	x
合板等用	84.9	88.4	88.5	57.1	61.3	x	61.5	65.9	62.1	x
木材チップ用	95.5	95.5	98.2	92.0	nc	nc	nc	nc	nc	nc
構成比 (%)										
計	100.0	84.4	76.6	7.8	15.6	0.4	12.1	1.1	1.4	0.6
製材用	100.0	78.2	77.4	0.8	21.8	x	17.2	1.4	2.0	x
合板等用	100.0	90.7	90.4	0.3	9.3	x	6.1	1.3	0.4	x
木材チップ用	100.0	100.0	57.8	42.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-

注：素材供給量とは、素材需要量（製材工場、合単板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量）をもって供給量としている。

ア 国産材供給量

国産材供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,803万7千³m³で、前年に比べ183万9千³m³（9.3%）減少した。

これを樹種別にみると、素材供給量の6割弱を占めるすぎは1,166万3千³m³で、前年に比べ107万3千³m³（8.4%）、ひのきは272万2千³m³で、同24万4千³m³（8.2%）、からまつは200万8千³m³で、同20万9千³m³（9.4%）、えぞまつ・とどまつは93万2千³m³で、同25万6千³m³（21.5%）、あかまつ・くろまつは57万³m³で、同3万1千³m³（5.2%）それぞれ減少した。

また、広葉樹は184万5千³m³で、前年に比べ16万2千³m³（8.1%）減少した（表3、図3）。

図3 樹種別素材供給量の推移

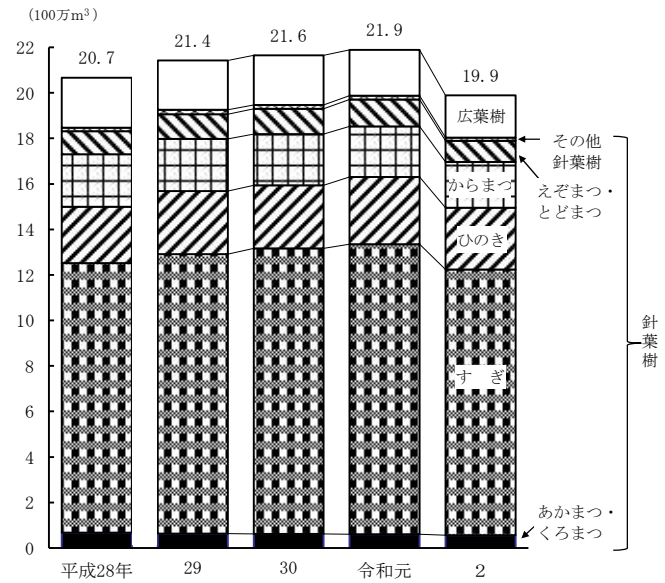


表3 需要部門別、樹種別素材供給量

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
令和元年									
計	21,883	19,876	601	12,736	2,966	2,217	1,188	168	2,007
製材用	12,875	12,755	145	8,582	2,189	1,034	737	68	120
合板等用	4,745	4,724	194	2,889	486	847	287	21	21
木材チップ用	4,263	2,397	262	1,265	291	336	164	79	1,866
令和2年									
計	19,882	18,037	570	11,663	2,722	2,008	932	142	1,845
製材用	11,615	11,499	114	7,841	2,014	894	592	44	116
合板等用	4,195	4,183	190	2,502	448	823	200	20	12
木材チップ用	4,072	2,355	266	1,320	260	291	140	78	1,717
対前年比(%)									
計	90.9	90.7	94.8	91.6	91.8	90.6	78.5	84.5	91.9
製材用	90.2	90.2	78.6	91.4	92.0	86.5	80.3	64.7	96.7
合板等用	88.4	88.5	97.9	86.6	92.2	97.2	69.7	95.2	57.1
木材チップ用	95.5	98.2	101.5	104.3	89.3	86.6	85.4	98.7	92.0
構成比(%)									
計	100.0	90.7	2.9	58.7	13.7	10.1	4.7	0.7	9.3
製材用	100.0	99.0	1.0	67.5	17.3	7.7	5.1	0.4	1.0
合板等用	100.0	99.7	4.5	59.6	10.7	19.6	4.8	0.5	0.3
木材チップ用	100.0	57.8	6.5	32.4	6.4	7.1	3.4	1.9	42.2

注：素材供給量とは、国産材である素材についてその入荷元である都道府県で生産されたものとして各都道府県値を集計し、全国値については都道府県計値の積算により算出した結果である。

イ 輸入材供給量

輸入材供給量を産地材別にみると、南洋材は10万3千 m^3 で、前年に比べ6万1千 m^3 (37.2%)、輸入材の8割弱を占める米材は284万1千 m^3 で、同58万2千 m^3 (17.0%)、北洋材は27万 m^3 で、同5万1千 m^3 (15.9%)、ニュージーランド材は32万2千 m^3 で、同7万1千 m^3 (18.1%)それぞれ減少した(表4、図4)。

また、製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量は37万5千 m^3 で、前年に比べ1万2千 m^3 (3.3%)増加した(表5)。

図4 輸入材供給量の推移

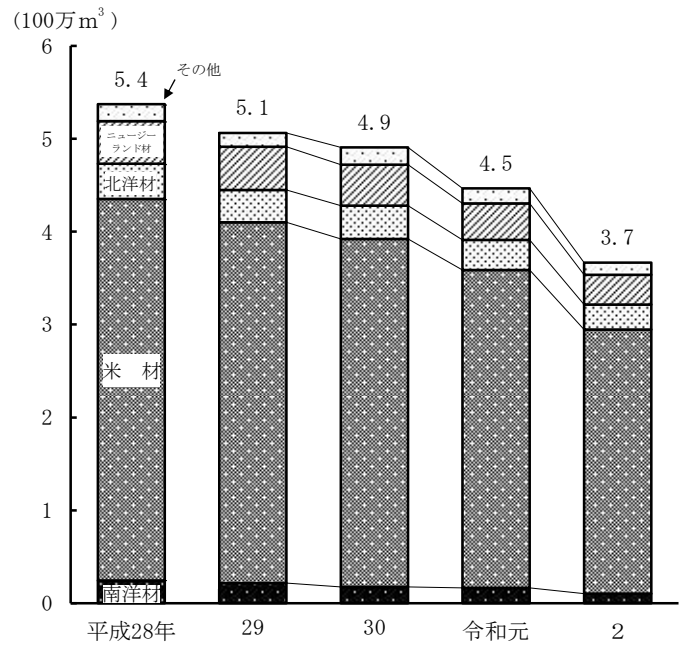


表4 輸入材供給量

区 分	単位: 千 m^3					
	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和元年	4,465	164	3,423	321	393	164
2	3,668	103	2,841	270	322	132
対前年比 (%)	82.2	62.8	83.0	84.1	81.9	80.5
構 成 比 (%)						
令和元年	100.0	3.7	76.7	7.2	8.8	3.7
2	100.0	2.8	77.5	7.4	8.8	3.6

表5 製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量

区 分	単位: 千 m^3					
	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和元年	363	4	65	161	17	116
2	375	3	62	184	14	112
対前年比 (%)	103.3	75.0	95.4	114.3	82.4	96.6
構 成 比 (%)						
令和元年	100.0	1.1	17.9	44.4	4.7	32.0
2	100.0	0.8	16.5	49.1	3.7	29.9

2 木材産業の動向

(1) 製材

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は4,115工場で、前年に比べ267工場(6.1%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の階層で増加し、それ以外の階層では減少した。

製材用動力の総出力数は60万244kWで、前年に比べ19,156kW(3.1%)減少した。

1工場当たりの出力数は145.9kWで、前年に比べ4.5kW(3.2%)増加した(表6、図5)。

表6 製材工場数及び製材用動力の出力数(各年12月31日現在)

区分	単位	令和元年	2	対前年比	構成比
工場数計	工場	4,382	4,115	93.9	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	2,583	2,414	93.5	58.7
75.0~300.0	〃	1,370	1,261	92.0	30.6
300.0kW以上	〃	429	440	102.6	10.7
うち1,000.0kW以上	〃	73	72	98.6	1.7
総出力数	kW	619,400	600,244	96.9	-
1工場当たり出力数	〃	141.4	145.9	103.2	-

イ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は1,497万9千m³で、前年に比べ146万1千m³(8.9%)減少した。1工場当たりの素材消費量は3,640m³で、前年に比べ112m³(3.0%)減少した(表7、図6)。

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

区分	単位	令和元年	2	対前年比	構成比
計	千m ³	16,440	14,979	91.1	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	966	818	84.7	5.5
75.0~300.0	〃	3,503	2,931	83.7	19.6
300.0kW以上	〃	11,971	11,230	93.8	75.0
うち1,000.0kW以上	〃	7,156	6,771	94.6	45.2
1工場当たり消費量	m ³	3,752	3,640	97.0	-

図5 製材工場の出力階層別構成割合(令和2年)

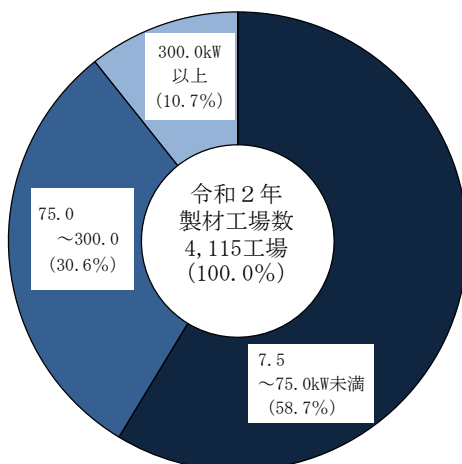
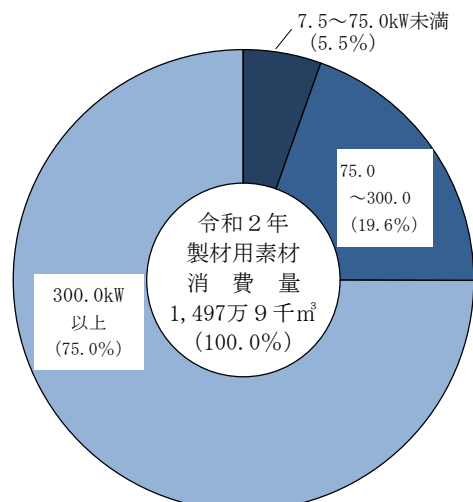


図6 製材用素材消費量の出力階層別構成割合(令和2年)



ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は、1,485 万 1 千³m³で、前年に比べ 178 万 6 千³m³ (10.7%) 減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材の入荷量は 1,161 万 5 千³m³で、前年に比べ 126 万³m³ (9.8%) 減少し、輸入材の入荷量は 323 万 6 千³m³で、同 52 万 6 千³m³ (14.0%) 減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は 78.2%で、前年に比べ 0.8 ポイント上昇した (表 8、図 7)。

図 7 製材用素材入荷量及び国産材割合の推移

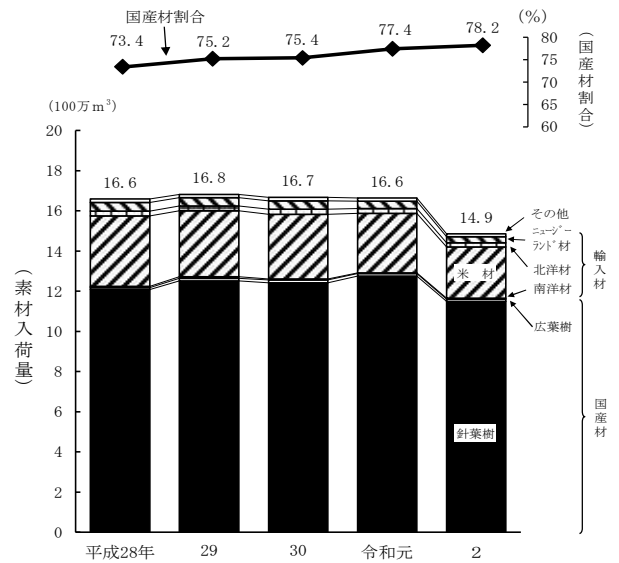


表 8 材種別製材用素材入荷量

単位：千³m³

年次	計	国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージニアランド材	その他
令和元年	16,637	12,875	12,755	120	3,762	x	2,961	230	364	x
2	14,851	11,615	11,499	116	3,236	34	2,557	210	303	132
対前年比 (%)	89.3	90.2	90.2	96.7	86.0	x	86.4	91.3	83.2	x
構成比 (%)										
令和元年	100.0	77.4	76.7	0.7	22.6	x	17.8	1.4	2.2	x
2	100.0	78.2	77.4	0.8	21.8	0.2	17.2	1.4	2.0	0.9

(イ) 素材の入荷があった製材工場は 4,067 工場で、前年に比べ 273 工場 (6.3%) 減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは 3,237 工場で、前年に比べ 121 工場 (3.6%)、国産材と輸入材は 653 工場、同 118 工場 (15.3%)、輸入材のみは 177 工場、同 34 工場 (16.1%) それぞれ減少した。

入荷量でみると、国産材のみは 1,084 万 2 千³m³で、前年に比べ 104 万 8 千³m³ (8.8%)、国産材と輸入材は 235 万 6 千³m³で、同 44 万 2 千³m³ (15.8%)、輸入材のみは 165 万 3 千³m³で、同 29 万 6 千³m³ (15.2%) それぞれ減少した (表 9)。

表 9 製材用動力の入荷類型別製材工場数及び入荷量

年次	計		国産材のみ		国産材と輸入材		輸入材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
令和元年	4,340	16,637	3,358	11,890	771	2,798	211	1,949
2	4,067	14,851	3,237	10,842	653	2,356	177	1,653
対前年比 (%)	93.7	89.3	96.4	91.2	84.7	84.2	83.9	84.8
構成比 (%)								
令和元年	100.0	100.0	77.4	71.5	17.8	16.8	4.9	11.7
2	100.0	100.0	79.6	73.0	16.1	15.9	4.4	11.1

注：工場数は、製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材品出荷量

製材品出荷量は820万3千 m^3 で、前年に比べ82万9千 m^3 （9.2%）減少した。

これを用途別にみると、8割強を占める建築用材は664万6千 m^3 で、前年に比べ62万3千 m^3 （8.6%）、土木建設用材は39万5千 m^3 で、同5万 m^3 （11.2%）、木箱仕組板・こん包用材は97万3千 m^3 で、同14万9千 m^3 （13.3%）それぞれ減少した。

また、人工乾燥材出荷量は382万5千 m^3 で、前年に比べ36万2千 m^3 （8.6%）減少した。

製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は46.6%で、前年に比べ0.2ポイント上昇した（表10、図8、図9）。

図8 用途別製材品出荷量の推移

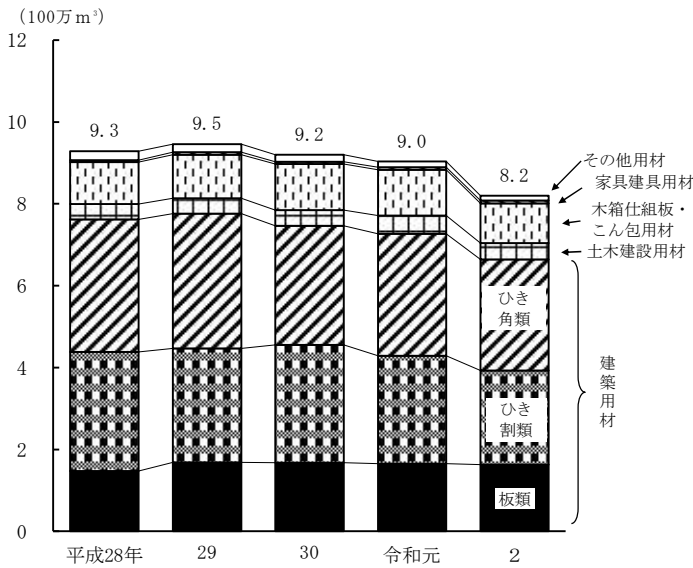


図9 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

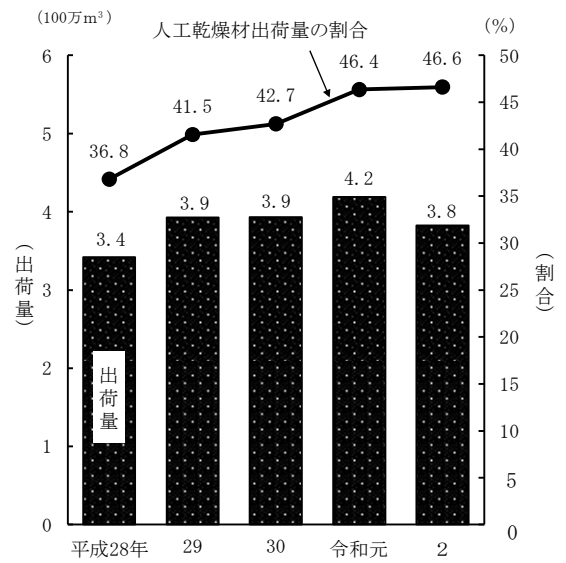


表10 用途別製材品出荷量

単位：千 m^3

年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
令和元年	9,032	4,187	7,269	1,650	2,637	2,982	445	1,122	56	140
2	8,203	3,825	6,646	1,625	2,303	2,718	395	973	63	126
対前年比 (%)	90.8	91.4	91.4	98.5	87.3	91.1	88.8	86.7	112.5	90.0
構成比 (%)										
令和元年	100.0	46.4	80.5	18.3	29.2	33.0	4.9	12.4	0.6	1.6
2	100.0	46.6	81.0	19.8	28.1	33.1	4.8	11.9	0.8	1.5

(2) 合単板及びLVL

ア 合単板工場数

合単板工場数は173工場で、前年に比べ3工場（1.7%）減少した。

これを工場類型別にみると、「特殊合板のみ」を生産している工場は124工場で、前年に比べ6工場（4.6%）減少した。「単板のみ」を生産している工場は15工場で、前年に比べ3工場（25.0%）増加した。「普通合板のみ」を生産している工場は33工場、「普通合板と特殊合板」を生産している工場は1工場で、それぞれ前年と同数であった（表11）。

表11 工場類型別合単板工場数（各年12月31日現在）

区分	計	単板のみ	普通合板のみ	普通合板と特殊合板	特殊合板のみ
令和元年	176	12	33	1	130
2	173	15	33	1	124
対前年比 (%)	98.3	125.0	100.0	100.0	95.4
構成比 (%)					
令和元年	100.0	6.8	18.8	0.6	73.9
2	100.0	8.7	19.1	0.6	71.7

イ 単板製造用素材入荷量

単板製造用素材の入荷量は462万6千m³で、前年に比べ82万2千m³（15.1%）減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材は419万5千m³で、前年に比べ55万m³（11.6%）、輸入材は43万1千m³で同27万2千m³（38.7%）それぞれ減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は90.7%となり、前年に比べ3.6ポイント上昇した（表12、図10）。

図10 単板製造用素材入荷量及び国産材割合の推移

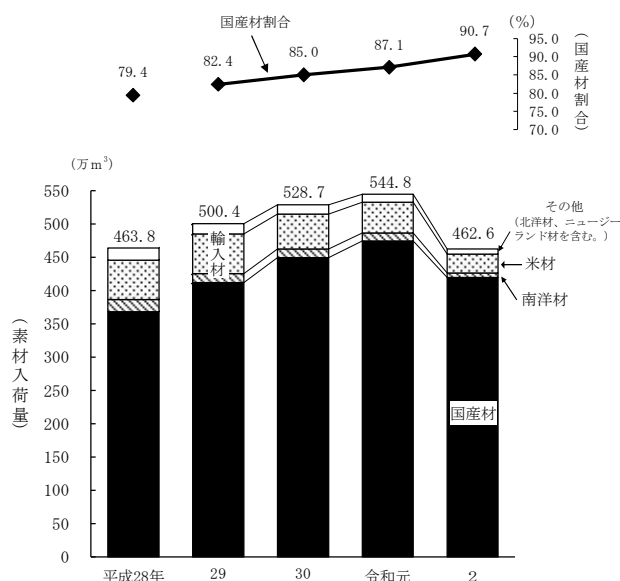


表12 材種別単板製造用素材入荷量

年次	計	国産材			輸入材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	米材	北洋材	ニュージラ ランド材	その他
令和元年	5,448	4,745	4,724	21	703	542	x	462	91	29	x
2	4,626	4,195	4,183	12	431	359	69	284	60	18	0
対前年比 (%)	84.9	88.4	88.5	57.1	61.3	66.2	x	61.5	65.9	62.1	x
構成比 (%)											
令和元年	100.0	87.1	86.7	0.4	12.9	9.9	x	8.5	1.7	0.5	x
2	100.0	90.7	90.4	0.3	9.3	7.8	1.5	6.1	1.3	0.4	0.0

ウ 単板消費量

単板消費量は363万3千 m^3 で、前年に比べ36万1千 m^3 （9.0%）減少した。

これを用途別にみると、合板用は331万9千 m^3 で、前年に比べ41万2千 m^3 （11.0%）減少した。LVL用は31万4千 m^3 で、前年に比べ5万1千 m^3 （19.4%）増加した（表13）。

表13 単板消費量

単位：千 m^3			
区 分	計	合板用	LVL用
令和元年	3,994	3,731	263
2	3,633	3,319	314
対前年比 (%)	91.0	89.0	119.4
構 成 比 (%)			
令和元年	100.0	93.4	6.6
2	100.0	91.4	8.6

エ 普通合板生産量

普通合板生産量は299万9千 m^3 で、前年に比べ33万8千 m^3 （10.1%）減少した。

このうち、針葉樹合板生産量は289万6千 m^3 で、前年に比べ31万6千 m^3 （9.8%）減少した。

また、厚さ別にみると、「6mm未満」は4万9千 m^3 で、前年に比べ1万1千 m^3 （18.3%）、「6～12mm」は46万2千 m^3 で、同3万8千 m^3 （7.6%）、「12～24mm」は134万1千 m^3 で、同18万3千 m^3 （12.0%）、「24mm以上」は114万7千 m^3 で、同10万6千 m^3 （8.5%）それぞれ減少した（表14、図11）。

図11 普通合板生産量及び針葉樹合板割合の推移

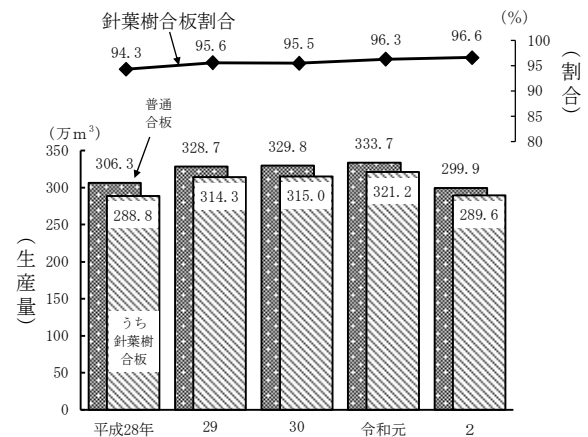


表14 普通合板生産量

区 分	令和元年	2	対前年比	構成比
	千 m^3	千 m^3	%	%
普通合板生産量	3,337	2,999	89.9	100.0
6mm未満	60	49	81.7	1.6
6～12	500	462	92.4	15.4
12～24	1,524	1,341	88.0	44.7
24mm以上	1,253	1,147	91.5	38.2
うち針葉樹合板	3,212	2,896	90.2	96.6
うち構造用合板	2,971	2,670	89.9	89.0

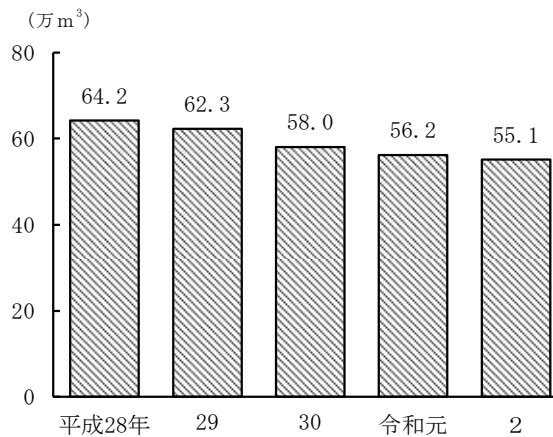
オ 特殊合板生産量

特殊合板生産量は55万1千 m^3 で、前年に比べ1万1千 m^3 (2.0%) 減少した (表 15、図 12)。

表 15 特殊合板生産量

区 分	令和元年	2	対前年比
	千 m^3	千 m^3	%
特殊合板生産量	562	551	98.0

図 12 特殊合板生産量の推移



カ LVL工場数

LVL工場数は14工場で、前年に比べ1工場 (7.7%) 増加した (表 16)。

表 16 LVL工場数 (各年12月31日現在)

区 分	令和元年	2	対前年比
	工場	工場	%
LVL工場	13	14	107.7

キ LVL生産量

LVL生産量は20万6千 m^3 で、前年に比べ1万8千 m^3 (9.6%) 増加した。

これを用途別にみると、構造用が10万4千 m^3 で、前年に比べ1万6千 m^3 (18.2%)、その他が10万2千 m^3 で、同2千 m^3 (2.0%) それぞれ増加した (表 17)。

表 17 LVL生産量

単位: 千 m^3			
区 分	計	構造用	その他
令和元年	188	88	100
2	206	104	102
対前年比 (%)	109.6	118.2	102.0
構成比 (%)			
令和元年	100.0	46.8	53.2
2	100.0	50.5	49.5

ウ 木材チップ生産量

木材チップ生産量は475万3千tで、前年に比べ51万3千t（9.7%）減少した。

これを原材料別にみると、素材（原木）は211万9千tで、前年に比べ20万9千t（9.0%）、工場残材は177万9千tで、同13万5千t（7.1%）、林地残材は4万9千tで、同8千t（14.0%）、解体材・廃材は80万6千tで、同16万1千t（16.6%）それぞれ減少した。

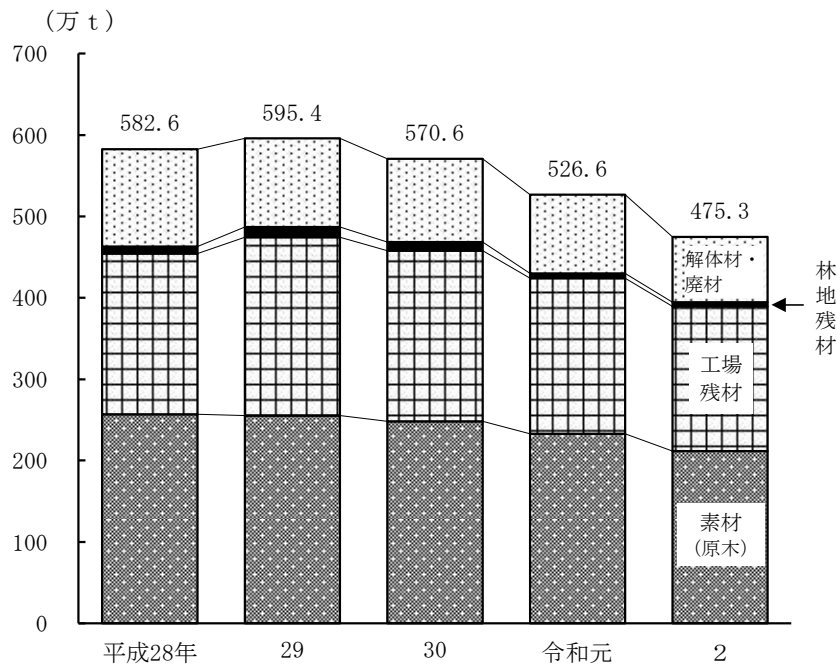
また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は288万6千tで、前年に比べ22万5千t（7.2%）、広葉樹は106万1千tで、同12万7千t（10.7%）それぞれ減少した（表20、図14）。

表20 木材チップ生産量

区 分	令和元年	2	対前年比	構成比
	千t	千t	%	%
木材チップ生産量	5,266	4,753	90.3	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,328	2,119	91.0	44.6
工場残材	1,914	1,779	92.9	37.4
林地残材	57	49	86.0	1.0
解体材・廃材	967	806	83.4	17.0
針葉樹・広葉樹別				
針葉樹	3,111	2,886	92.8	...
広葉樹	1,188	1,061	89.3	...

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図14 原材料別木材チップ生産量の推移



(4) 集成材及びCLT

ア 集成材及びCLT工場数

集成材工場数は148工場で、前年に比べ14工場(8.6%)減少した。

CLT工場数は11工場で、前年に比べ2工場(22.2%)増加した(表21)。

表21 集成材及びCLT工場数
(各年12月31日現在)

区 分	単位：工場	
	集成材工場	CLT工場
令和元年	162	9
2	148	11
対前年比(%)	91.4	122.2

イ ラミナ消費量

ラミナ消費量は242万1千 m^3 で、前年に比べ28万5千 m^3 (10.5%)減少した。

これを用途別にみると、集成材用は240万 m^3 で、前年に比べ28万6千 m^3 (10.6%)減少し、CLT用は2万1千 m^3 で、同1千 m^3 (5.0%)増加した(表22)。

表22 ラミナ消費量

区 分	計	単位：千 m^3	
		集成材用	CLT用
令和元年	2,706	2,686	20
2	2,421	2,400	21
対前年比(%)	89.5	89.4	105.0
構成比(%)			
令和元年	100.0	99.3	0.7
2	100.0	99.1	0.9

ウ 集成材生産量

集成材生産量は174万 m^3 で、前年に比べ18万 m^3 (9.4%)減少した。

これを用途別にみると、構造用が167万1千 m^3 で、前年に比べ15万9千 m^3 (8.7%)減少した(表23)。

表23 集成材生産量

区 分	計	単位：千 m^3				その他
		構造用				
		小計	大断面	中断面	小断面	
令和元年	1,920	1,830	15	819	996	90
2	1,740	1,671	24	896	751	69
対前年比(%)	90.6	91.3	160.0	109.4	75.4	76.7
構成比(%)						
令和元年	100.0	95.3	0.8	42.7	51.9	4.7
2	100.0	96.0	1.4	51.5	43.2	4.0

エ CLT生産量

CLT生産量は1万3千 m^3 で、前年並みであった。

これを用途別にみると構造用が1万1千 m^3 で、前年並みであった（表24）。

表24 CLT生産量

単位：千 m^3

区 分	計	構造用	その他
令和元年	13	11	2
2	13	11	2
対前年比（%）	100.0	100.0	100.0
構 成 比（%）			
令和元年	100.0	84.6	15.4
2	100.0	84.6	15.4